

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

3G移動通信サービス 開始3カ月で加入者2万人

『朝鮮新報』が2009年4月3日付で報じたところによると、2008年12月に平壤市内を中心にサービスが開始されたWCDMA方式の第3世代携帯電話サービスの加入者が2万人に達したとのことだ。このサービスは朝鮮通信会社とエジプト・オラスコム電気通信会社が共同で設立した通オ合弁会社が提供している。

現在、音声通話とショートメッセージサービス（SMS）が提供されている。筆者が2009年4月末に平壤を訪問した時にも、得意げに通話やメッセージをやりとりする人々の姿を見ることができた。

2度の祝砲夜会（打ち上げ花火大会）開催

2009年4月15日付『朝鮮中央通信』によると、14日夕刻、平壤で大規模な打ち上げ花火大会「強盛大国の花火」が開催された。チュチェ思想塔前の大同江の両岸を中心に、玉流橋、大同橋、万寿台の丘、牡丹峰、綾羅島、羊角島など市内の各所に数十万人の市民が集まった。大会には金正日総書記も参加した。

5月1日付『朝鮮中央通信』によると、同日夕刻、平壤市内の普通江河畔で「われらは勝利する」が開催された。

平壤で朝中友好都市大会開催

2009年5月15日付『朝鮮新報』によると、5月12日、平壤で朝中友好都市大会が開催された。大会には友好団体の代表と朝中間で友好都市交流をしている黄海南道、江原道、平安南道、羅先市、南浦市、咸興市、清津市、平壤市万景台区域の代表と江蘇省、山東省、四川省、上海市、吉林市、琿春市、長春市の代表が参加した。

朝中間の友好関係締結は1982年に咸興市と上海市との間に友好関係が結ばれたのに続き、江原道と江蘇省、黄海南道と山東省、平安南道と四川省、平壤市万景台区域と吉林省吉林市などで友好関係が設定されている。

第12回平壤春季国際商品展覧会開催

2009年5月20日付『朝鮮新報』によれば、2009年5月11日～14日、平壤市の三大革命展示館で第12回平壤春期国際

商品展覧会が開催された。今年の展覧会の特徴の一つは、中国側企業専用の会場である「中国館」が設けたことである。中国企業だけで展示会場を設置したのは今回が初めてで、参加した中国企業は100を超えた。5月2日付の『朝鮮中央通信』によると今回の展覧会には、北朝鮮と中国、ロシア、ドイツ、マレーシア、シリア、スウェーデン、シンガポール、オーストリア、英国、イタリア、インドネシア、ベトナム、タイ、フランス、トルコ、台湾の企業が参加した。

朝鮮料理協会が内閣常設機構へ

2009年5月29日付『朝鮮新報』によれば、1988年8月に創設され非常設機構として活動してきた朝鮮料理協会が最近、内閣の常設機構となった。これまで同協会はレストランとホテルの料理人、従業員、接待員らを対象に料理技術指導を行う社会団体として活動してきた。内閣機構に昇格することで、今後は人びとの食生活様式や文化を時代のニーズに合わせて改善するための幅広い活動に取り組むことになる。

生産増加のためのキャンペーン（150日戦闘）実施

2009年7月3日付『朝鮮新報』によれば、今年の4月20日より、「今年中に強盛大国建設の最終的な勝利に向けた確固たる展望を開くため」に150日間にわたる同院キャンペーンである「150日戦闘」が開始され、現在実施中とのことだ。

このキャンペーンは、今年の経済建設の成果が、2012年に向けた突破口を開けるか否かを左右するという見方から、金属、電力、石炭、機械、軽工業など経済の各部門の工場、企業所で行われている。

北朝鮮では2007年末に故金日成主席の生誕100年、金正日総書記の生誕70年となる2012年に「強盛大国の大門を開く」という目標が提示されている。強盛大国には政治思想大国と軍事大国、経済大国の3つの要素があるとされている。政治思想大国と軍事大国はすでに達成されていると考えられており、特に経済建設を推進することが重要な課題とされている。「大門を開く」の内容については数値目標などは発表されていない。

（ERINA調査研究部研究主任 三村光弘）